

# 防災に関する道外視察研修レポート

議員氏名 鈴木 克 弘

- 1 視察先 岩手県遠野市
- 2 調査事項 沿岸被災地後方支援
- 3 所感（意見・課題・当町への反映など）

東日本大震災で官民一体で取組んだ後方支援活動は、災害支援の先進的な事例であり、将来発生が懸念される「千島海溝巨大地震」も含めた、大規模広域災害への対応にあっては、支援体制の構築を進める必要性を感じ、今回の視察を行ってきました。

## ○後方支援を可能にした背景

- ・地理的：沿岸地域と内陸所要都市の中心に位置し、移動も 50 km 圏内であること。地質が花こう岩でしっかりしていて、活断層がないこと。
- ・歴史：明治三陸地震津波（明治 29 年）、昭和三陸地震津波（昭和 8 年）、チリ地震津波（昭和 35 年）と、被害にあった沿岸の復旧支援に携わってきたこと。
- ・既存施設活用：遠野運動公園を利用し、岩手県防災訓練（参加 8746 人）・みちのく ALERT 2 0 0 8（参加 18000 人）の大きな防災訓練を行っていたこと。
- ・果たすべき役割：平成 19 年沿岸部も含めた 9 市町村で、三陸地域地震災害後方支援拠点施設整備推進協議会を設立。津波が無い内陸が担う役割、沿岸との結節点である遠野市の役割を、国・県の関係機関に熱意を込めて要望・提案活動を行ってきたこと。

今回の視察では、地理的、既存施設等、当町と似通った環境あることが感じとれました。これらの背景を経たからこそ、発災後の初動も迅速に行えた事と思います。

また官民一体の活動は、日頃の訓練、意識の表れなのだと感じました。自然災害に想定外の言葉はもうないと自覚し、中標津町が担う役割、沿岸地域との連携を見据え、議会としての役割を構築していくべきと考えます。

# 防災に関する道外視察研修レポート

議員氏名 鈴木 克 弘

- 1 視察先 岩手県陸前高田市
- 2 調査事項 東日本大震災における消防の活動状況
- 3 所感（意見・課題・当町への反映など）

冒頭に、屋上へ避難した消防職員の撮影による津波映像が流れました。逃げ惑う人々に声をかけ、周りを見渡している間に、この屋上まで流れ込んでくる津波、そこで映像が切れました。何分の映像だったでしょう。

その後、これは私が撮影しましたと職員の説明があり、今までこのような恐怖を感じた事はないです。この災害で町は壊滅、消防職員・団員合わせ 35 名が殉職され、消防庁舎も全壊・車両も数台失いました。

発災から約 1 時間半後、県へ緊急消防援助隊の派遣要請を行い、2 時間後には人命救助・救急搬送を開始したこと、ガレキ撤去・発電機等は、民間の力を借りたこと、各々避難した場所では隣近所で助け合っていたことの説明を受けました。

この災害を食い止めることは出来たでしょうか。せめて犠牲者の数を減らすことが出来るとしたら、「無理をしない、させない。」ことだと消防署長の話に感銘を受けました。

自分の命は自分が守るという常日頃の意識と、定期的な訓練、近所付き合いからなる人と人の繋がりが必要と感じました。